

ギシギシ



タデ科の多年草。井頭橋から松殿橋の土手に多く見られる。写真の株は越冬したもので、根出葉は大きく狭卵形、長さ 20cm、幅が 7～8 cm ある。茎は赤い。5～8月に茎が 1 m ぐらいいまで伸びて花をつける。雌雄異株である。

ギシギシという名前は、茎と茎を擦りあわせると「ギシギシ」という音がするところ由来しているようだ。やや湿った道ばたや水辺、湿地、田のあぜなどに生え、日本全国に分布している。

これからの 活動予定

- 5/ 7(日) アユのテスト放流
- 28(日) 定例活動
- 6/ 4(日) 身近な川の一斉調査
- 18(日) 第 17 回定期総会**
- 19-26 迄 環境展出展(主催:勤福)
- 25(日) 定例活動
- 7/23(日) 定例活動
- 8/27(日) 定例活動

※運営会議は定例活動の前日です

定期総会のお知らせ

6月 18日(日)午後1時 30 分～

..... 東大泉地域集会所.....

この1年を振り返り、新たにスタートする大切な場です。
会員のみなさま、ぜひご出席ください。



定例活動 毎月第 4 日曜 午後 1:30～

どなたでも 川にはいれます!

編集後記

▼おだやかに晴れた日の南大泉一丁目。母親と3歳ほどの男の子が、ゆっくりと歩いてきてすれ違った。なんだか微笑ましいので振り向くと「おかあさん！ いっぱい、さいてるよー」「そうだねー」。道端にはビオラがたくさん咲いていた。(ひ)

▼いくら貼り紙があるとはいえ、源流部に水がないと不安になる方も多くいると思う。私も雨が降ると楽しみに見に行くのだが、かすかな筋の水溜まりではやはり物足りない気がして帰ってくる。水がないとゴミが増える、そういう法則って、あるかな？(あ)

▼この春、飛行機の窓から眼下を見下ろすと、水をたたえた田んぼが空を映し美しく広がっていた。その一枚一枚に丁寧な農家の手作業が感じられて、うっとり眺めた。この水はどこから来るのか、改めて考えるまでもなく、緑なす山河のたまものだと。(さ)

発行 白子川源流・水辺の会
編集 東谷 篤/東谷貞子/菅沢恵子
題字 宮本沙海

発行部数 1,300部

代表 菅沢 博 03-3923-8430

練馬区南大泉 1-10-5

suga-lohas@jcom.home.ne.jp

http://www.geocities.jp/sirako_river/

※この会報は年 3 回発行しています